

## 第2次松戸市子どもの読書活動推進計画(案)への意見内容と意見に対する市の考え方

第2次松戸市子どもの読書活動推進計画(案)に関する意見を募集したところ、市民の皆さまからご意見をいただきました。お寄せいただいたご意見とそのご意見に対する本市の考え方について、次のとおりまとめましたので、公表します。

### 意見募集手続きの内容概要

- 1 募集期間 令和8年1月6日(火)～令和8年2月5日(木)
- 2 提出者数 8名1団体
- 3 意見総数 56件
- 4 備考(該当箇所・件数)

	該当箇所	件数
1	第1章 第2次松戸市子どもの読書活動推進計画策定にあたって	15
2	第2章 第2次松戸市子どもの読書活動推進計画の基本的な考え方	2
3	第3章 第2次松戸市子どもの読書活動推進計画の具体的取組	30
4	全体	7
5	その他	2
	合計	56

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
1	P.4	第1章 1 子どもの読書活動の意義	1 子どもの読書活動の意義 の最後の一文「なお、本計画において、「読書」にはパソコンやタブレット、スマートフォンによる読書を含み、また「本」にはマンガ、雑誌は含まないものとします。」は定義付けるのが難しく感じます。	ご意見ありがとうございます。ご指摘のとおり、読書形態が多様化する中で、明確な定義付けは難しい側面がございます。本計画では、取組評価の整理のため、一定の定義を設けておりますが、具体的な取組については、今後の社会変化も踏まえながら進めてまいります。	無
2	P.4	第1章 1 子どもの読書活動の意義	「読書」にはパソコンやタブレット、スマートフォンによる読書を含み、また「本」にはマンガ、雑誌を含まないものとある。マンガは本の一種だと思ふ。図書館情報学で本として分類されているが、このような定義に至った経緯を教えてください。	「全国学力・学習状況調査」や文化庁・県の不読率調査において、マンガ・雑誌を読書に含めていないことを踏まえ、統計等を比較可能とするため、本計画における「読書」の定義には含まないとしましたが、マンガ・雑誌は興味喚起や読書活動への入口として有効であると認識しております。具体的取組の「子ども向けの図書館資料の幅を広げる検討を進めます(コミック、ボードゲーム等)」(P.42、P.49)等で進めてまいります。なお、この定義は統計上の整合性を図るためのものであり、図書館における資料収集や提供を制限するものではないことをP.4に補足で追記いたします。	有

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
3	P.4等	第1章 1 子どもの読書活動の意義	漫画の立ち位置とその扱いは、漫画そのものが表現力や内容において振り幅がとても広く分類する事は難しいでしょう。しかし、既に国策としてサブカルチャーは文化の一翼をになう存在になっています。	ご意見ありがとうございます。「全国学力・学習状況調査」や文化庁・県の不読率調査において、マンガを読書に含めていないことを踏まえ、統計等を比較可能とするため、本計画における「読書」の定義には含まないとしましたが、マンガは興味喚起や読書活動への入口として有効であると認識しております。具体的取組の「子ども向けの図書館資料の幅を広げる検討を進めます(コミック、ボードゲーム等)」(P.42、P.49)等で進めてまいります。なお、この定義は統計上の整合性を図るためのものであり、図書館における資料収集や提供を制限するものではないことを P.4 に補足で追記いたします。	有

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
4	P.4等	第1章 1 子どもの読書活動の意義	<p>本計画における「読書」にはパソコンやタブレット、スマートフォンによる読書を含み、また「本」にはマンガ、雑誌は含まない」ともしていますが、この定義づけは何を基準に定義づけているのでしょうか。一方でP.18に「マンガを入口に活字文化への関心・・・」とありますが、マンガを含まない明確な理由は何でしょうか。また雑誌についても専門分野の誌面で構成されるものもあります。合せて理由を示していただければと思います。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。「全国学力・学習状況調査」や文化庁・県の不読率調査において、マンガ・雑誌を読書に含めていないことを踏まえ、統計等を比較可能とするため、本計画における「読書」の定義には含まないとしましたが、マンガは興味喚起や読書活動への入口として有効であると認識しております。具体的取組の「子ども向けの図書館資料の幅を広げる検討を進めます(コミック、ボードゲーム等)」(P.42、P.49)等で進めてまいります。なお、この定義は統計上の整合性を図るためのものであり、図書館における資料収集や提供を制限するものではないことをP.4に補足で追記いたします。</p>	有
5	P.7等	第1章 3 第1次計画の取組状況および成果	<p>広報の配布について、平成30年と現在では広報誌を手にする実態数に変化があると思います。今回の計画でなくてもいいのかもしれませんが、ネット配信(SNS)などの方向性を充実することも検討いただけたらと思いました。次回の計画のときなどは配布量の再検討をお願いできればと思います。今後の配布はぜひ親子広場、民間の子どもが集まる場所も入れていただければと思います。(すでにおいていると思いますが・・・)</p>	<p>ご意見ありがとうございます。広報手段については、紙媒体に加え、SNSなど若い世代や子育て世代に届きやすいよう、具体的取組の「市公式LINEにおける情報発信の充実を図ります」「SNS等を活用し図書館の情報発信を充実させます」(P.35、P.42、P.49)等で進めてまいります。</p> <p>配布場所についてもより広い周知を目指して改めて検討してまいります。</p>	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
6	P.7 等	第1章 3 第1次計画の 取組状況および 成果	<p>お話し会の目標人数について:平成 30 年と比べると少子化もありますし、働く女性の増加によって 0-3 歳の親子の日中の過ごす時間の変化があると考えられます。なので、15000 人は難しいと考えます。</p> <p>親子広場などに出張の新規の部分もありますが、調整してもいいのかもしれませんが。もしくは土日など利用が多い広場もあります(平日は保育園なので)そのような土日などの開催も今後検討をしてもいいのかもしれませんが。イベントなどで大きく人が集まる時にも開催してカウントするのも有効かもしれません</p>	<p>ご意見ありがとうございます。少子化の進行や共働き世帯の増加などにより、子どもを取り巻く親子の環境は、平成 30 年度当時と比べて変化しているものと認識しております。それらを踏まえ、第 2 次計画では、評価指標及び目標値を見直しました(P.27)。おはなし会については、参加しやすい形となるよう実施方法を工夫しながら、第 2 次計画期間においても引き続き取り組みます。</p>	無
7	P.9 等	第1章 3 第1次計画の 取組状況および 成果	<p>基本方針② 学校貸出の目標値を 100%としている中で、運営支援の在り方はニーズに応えるという受け身では足りないと思います。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。第 1 次計画策定時には目標値を 100%としておりましたが、第 2 次計画では、各学校の実情等を踏まえ、目標値を 80%(小学校)、40%(中学校)に設定しております(P.27)。第 2 次計画では、学校側の図書館へのニーズとして挙げられた配送に関する課題への対応や、必要資料への配慮等に取り組むことで、まずは学校貸出の増加を図ってまいります。</p>	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
8	P.13等	第1章 3 第1次計画の 取組状況および 成果	本に親しむ機会の充実<小学生><中高生> 本に親しむ機会の充実として「ビブリオバトル」があるが、基本的に学校内でのみ行われていることであり、学校で差が出てしまう。地域のイベントとしてもやってほしい。	ご意見ありがとうございます。ビブリオバトルをはじめとする参加型のイベントは、子どもたちが本の魅力を発見し、自分の言葉で語り合う楽しさを実感できる大切な機会です。こうした活動を学校内にとどめず、他の場所でも実施していくことは、地域全体の読書文化の醸成につながるものと考えます。 図書館における取組としては、職場体験等の機会にビブリオバトルや POP 作成を組み込む等、まずは丁寧に向き合える場での検証を進めてまいりたいと考えております。今後も様々なアプローチで子どもたちが主体的に参加できるよう取組を進めてまいります。	無
9	P.13等	第1章 3 第1次計画の 取組状況および 成果	YA コーナーに、ぜひ松戸ゆかりのある作家の本や千葉にゆかりのある若者向けの本などもとりにいれてもらいたいです。包括的性教育の本もぜひ入れてもらいたいです。	ご意見ありがとうございます。YA コーナーにおいて、地域にゆかりのある作家の作品を取り入れる視点は、地域に親しみを持つきっかけとして重要であると考えております。また包括的性教育に関する資料についても、特に YA 世代にとって必要なテーマの一つと認識しております。これらの分野については、出版点数が限られている面もございますが、日常の選書・資料整備の中で、引き続き意識的に収集・充実に努めてまいります。	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
10	P.13等	第1章 3 第1次計画の 取組状況および 成果	リーディングトラッカーを図書館全館へ導入しているとのことですので感謝します。学校図書館への導入については、P.51, P.52 の記述に見当たりませんでした。導入状況など明示していただきたいと思います。	ご意見ありがとうございます。学校へのリーディングトラッカーの導入は、教育の機会均等を保証するための重要なツールの一つであると考えております。学校図書館については、各校での活用や運用状況が一律でないことから、現時点では具体的な状況をお示しできませんが、第2次計画期間において、各校の状況確認を進める中でリーディングトラッカーの導入状況について確認を行い、全校設置に向けて、図書館とも連携しながら取り組んでまいります。P.52「その他」に「リーディングトラッカーの学校図書館への導入を進めるとともに、周知を図ります」を追加いたします。	有
11	P.14等	第1章 3 第1次計画の 取組状況および 成果	読書通帳について、あらためて利用している子ども達とニーズのことを調査(聞き取りでもいいので)することができればと思います。機械が大きく置けない場所が多いようでしたら、限られた場所での利用で、継続が難しいと考えます。もっと別な形を時代的にも模索していくことを検討してもらいたいです。	ご意見ありがとうございます。読書通帳機は現在5館に設置しておりますが、設置場所の制約により、全ての利用者が気軽に利用できない状況でございます。既存の読書通帳機以外での読書記録の方法については、マイページでの本棚機能の活用もございますが、より使いやすい方法について、他自治体の事例も参考にしながら、具体的な検討を進めてまいります。P.34、P.41の「読書通帳の利用を促進します」を「読書履歴を活用し、読んだ本を可視化できる環境を整えます」と修正します。	有

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
12	P.17	第1章 4 アンケートからみる子どもの読書実態	中学生のアンケート有効回答率 5.1%を計画のデータと用いるのは、乱暴だと思う。再アンケートの実施など努力した結果が 5.1%なのか。	<p>ご指摘のとおり、中学生の回収率は、他の類似調査と比較しても低い水準にあると認識しております。そのため、結果の取扱いにあたっては、回答割合には一定の誤差が含まれる可能性があることを前提に、慎重に読み取る必要がある旨を注記しております。本アンケート結果は、中高生全体の傾向や実際の声を把握するための参考資料の一つと位置付けており、アンケート結果のみに依拠することなく、計画を作成しております。</p> <p>今後、同様の調査を実施する際には、回収率の向上に向けて手法の見直し・改善に努めてまいります。</p>	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
13	P.17 等	第1章 4 アンケートからみる子どもの読書実態	<p>近年、小説離れやクラシック音楽離れは加速度的です。本屋の廃業、音楽は配信へ移行する中で失われているものは何かということを考えます。</p> <p>子どもの読書実態のアンケート結果(P.17)のなかに、読書が好きではない理由として「文字・文章を読むことが苦手・面倒」という回答が多いとありましたが、小説などは文字だけで情景を想像する力や記憶しながら物語全体の展開の中で想起するなどの能力が必要とされ、苦手・面倒を克服するには、個々にとっての好きな作家やジャンルに出会うことで最後まで読み切った達成感と心地よい読後感の経験を重ねる事でしか克服し得ないと思います。</p>	<p>読書への苦手意識を克服するためには、興味関心に合った本との出会いの他にも、ご意見のとおり、心地よい読後感の経験の積み重ねが重要であると考えます。「学習状況や児童の興味関心に合わせた図書館資料を収集します」(P.41)「読書が苦手な子でも読みやすい本の収集を推進します」(P.42)といった取組を通じて、子どもが主体的に本を選び、読書を楽しめる環境づくりを進めてまいります。</p>	無
14	P.17 等	第1章 4 アンケートからみる子どもの読書実態	<p>乳幼児と未就学児を使い分けている。年齢的に同じだと思うが、どう理解したら良いか。</p>	<p>本計画では「乳幼児」はおおむね 6 歳までとし、6 歳の就学児も含まれますが、アンケート調査は無作為抽出の際に年齢基準日等を設定する必要があり、小学生対象の調査と対象が重複しないよう、未就学児に限って実施しました。本計画で「未就学児」と記載している箇所は、「乳幼児」と同義として扱って差支えありません。ご意見を受け、趣旨についての補足を P.4 に追記いたします。</p>	有

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
15	P.21	第1章 5 学校における 読書活動の取組	小学校・中学校の通信環境について、十分に整備されていないのでしょうか。	市立小・中学校については、GIGA スクール構想により一人一台端末と校内ネットワークの基盤整備は完了しております。P.21 の記述は、インフラの未整備を意味するものではなく、一斉接続時の安定性や効果的な活用方法の共有など、運用面での課題を指したものでしたが、誤解を招く表現でした。そのため、P.21「③デジタル環境の整備と多様な媒体の活用」の課題について、「GIGA スクール構想により基盤整備は完了していますが、安定した通信環境の維持や効果的な利活用のための支援が課題として挙げられています」という表現を冒頭に追加いたします。	有

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
16	P.27	第2章 6 評価指標および目標値	<p>目標値の設定の低さにこの「子ども読書活動推進計画案」の意欲のなさを感じる。</p> <p>これからの5年間で何もやらなくても済むような数値目標だと思う。もっと数値を高く設定してほしい。特に「児童書の蔵書数」、「児童書の貸し出し数」、「図書館を利用した子どもの割合」については、教育行政がやる気を出して施策を進めれば、高い数値を目指せるはずだと思う。50万都市松戸で、市立図書館がどうしようもないのだから、せめて子どもたちの蔵書は増やしてほしい。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。第1次計画期間中は、東松戸地域館の開館等により児童書の蔵書数は着実に増加し、貸出数は目標を上回りました。一方で、小中学生の読書習慣に関する指標は目標に届かず、全国的な課題とされています。こうした背景を踏まえ、本計画では、現実的な目標数値を設定しました。</p> <p>また、蔵書については施設の収容スペースに限りがあり、現状では大幅な増加が難しい状況です。それでも現状維持ではなく増やすことを目標とし、計画的な蔵書の充実に取り組んでまいります。</p>	無
17	P.27	第2章 6 評価指標および目標値	<p>専門書や絵本、こどもが読みやすい本、バリアフリー本などの蔵書を増やしてほしい。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。蔵書の充実は大変重要であると考えております。本計画においても「児童書蔵書数」や「子ども向けの点字・大活字・外国語資料数」を評価指標に位置付け(P.27)、蔵書の充実に取り組んでまいります。また、子どもへのアンケートでは「読みやすい本がもっとあれば」との声が寄せられましたので、「読書が苦手な子どもでも読みやすい本の収集を推進します」(P.42、P.49)等の取組を通じて、誰もが利用しやすい資料の整備を進めてまいります。</p>	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
18	P.29 等	第3章 1 取組の構成	発達段階の特徴からも分かるように、学校でも朝読書や図書すいせん会、ビブリオバトル等の趣向を凝らしていますが小学校高学年には是非とも乗り越えたいスキルであり、楽しんで欲しいです。	ご意見ありがとうございます。小学校高学年が、読書を通して自ら選び、考え、語る活動へと発展させることができるよう、「POP コンクールを継続し、子ども参加型の企画を推進します」(P.42)のように興味関心を持続させる取組をはじめ、主体的に読書活動に携わり、表現していく取組等を推進してまいります。	無
19	P.30	第3章 2 具体的な方策 (1)乳幼児	項番5で「園」とある。P.32のように保育所(園)・幼稚園・認定こども園等に修正した方が良いと思う。	ご意見ありがとうございます。P.30 該当の記述を修正いたします。	有
20	P.30 等	第3章 2 具体的な方策 (1)乳幼児	具体的な方策のなかに、公園で図書を貸し出す「青空図書館」のような方策も盛り込んでいただくことを要望します。	ご意見ありがとうございます。公園など屋外空間で本に触れる機会を設ける取組は、読書への関心を高める一つの方法であると認識しております。現在、本計画ではP.31に地域の取組として「地域の行事や集まりに合わせた本に親しむ機会の実施」を掲げており、今後、地域で行われる取組に図書館としてどのように関わっていけるか、検討してまいります。	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
21	P.31等	第3章 2 具体的な方策 (1)乳幼児	地域でおはなし会を企画する場合、町内会や市民活動のイベント、まつど DE つながるステーションを利用することも検討してほしい。	ご意見ありがとうございます。図書館おはなしボランティアは、各団体等からの依頼を受けて出張おはなし会を行っており、今後も積極的に対応してまいります。また、「子どもの本の選び方・おはなし会の進め方」をテーマにしたパートナー講座についても、引き続き推進してまいります。	無
22	P.33等	第3章 2 具体的な方策 (1)乳幼児 (2)小学生	児童館の本はかなり古いものが多く気になっていました。ぜひ図書館の力をお貸してください。	ご意見ありがとうございます。子どもたちが集まる身近な施設において、質の高い資料に触れられる環境を整えることは、読書活動を推進する上で必要不可欠な視点であると認識しております。 図書館といたしましては、各施設に常備されている資料を管理・更新するのではなく、図書館が保有する多様な蔵書を提供する団体貸出や、パートナー講座(子どもの本の選び方)等の活用で、子どもたちの生活圏における読書環境の向上を支えてまいりたいと考えております。	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
23	P.34 等	第3章 2 具体的な方策 (1)乳幼児 (2)小学生 (3)中高生 (4)配慮を必要とする子ども	各駅に返却ポストの設置を希望します。	<p>ご意見ありがとうございます。返却ポストの設置については、本計画においても利便性向上のための取組の一つと捉えており、今後、検討を進めてまいります。一方で、新たな設置場所については、管理や運用、コスト面の課題、及び関係者の協力が必要であることから、駅に限らず幅広く捉えて検討を進めてまいります。なお、ご意見を受けまして、乳幼児向け施策としての取組「本の返却等サービス拠点の増設を検討します」(P.34)を小学生(P.42)・中高生(P.49)・配慮を必要とする子ども(P.51)にも拡大して追記いたします。</p>	有

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
24	P.34 等	第3章 2 具体的な方策 (1)乳幼児 (2)小学生 (3)中高生	<p>体験型イベント「ブックフェス」や「地域リサイクル」の継続的な開催(基本方針③関連) 子どもたちの不読率の背景には、多忙な学校生活や家庭環境の変化がありますが、昨年12月に森のホールで開催された「ブックフェス in 松戸」や、地域拠点で大盛況となっているつながるステーションでの「古本市」などは、本が親子での「楽しみ」や「交流」のツールであることを証明しています。</p> <p>親子体験の創出：単なる本の貸出に留まらず、親子で本に触れ、選ぶ体験ができるイベントを定例化してください。</p> <p>地域リサイクルの推進：物価高の影響もあり、本の購入に躊躇するとも聞きます。本のリサイクルを通じた地域交流を促進し、子どもたちが生活導線の中で「本」と出会える接点を増やしてください。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。生活圏内で親子が本に触れ合える環境の拡充は、読書活動を推進する上で重要な課題であると認識しております。</p> <p>一方で、「古本市」でも活用している図書館のリサイクル資料は、種類や提供時期が一定せず、情報や出版年が古い資料、また現在貸出需要が低い資料が中心となります。特に児童書については、安定的な供給が困難でございます。そのため、リサイクル資料を主に活用する方法では、恒常的に質の高い読書環境を確保することはできないと考えております。</p> <p>今後もリサイクル資料の活用は継続しつつも、現在実施している図書館主催の講座等での関連資料の紹介や展示の実施、図書館の蔵書を活用した団体貸出制度の周知・充実などを通じて、子どもたちが良質で適切な資料に接することができる環境の整備について検討してまいります。</p>	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
25	P.39等	第3章 2 具体的な方策 (2)小学生 (3)中高生	博物館アワードでの研究発表は、毎年拝見するのがとても楽しい。探求した成果をまとめていく中で、様々な本も調べ物を通して利用されたことと思います。あるいはインターネットでの調べ物も併用したことでしょう。情報リテラシーを学ぶ絶好の機会でもあります。	ご意見を踏まえ、小学生においても情報活用能力の育成は重要ですので、P.39 基本方針②「より良い読書環境の整備」の取組において、「情報リテラシーについて学ぶ機会を設けます」を追加いたしました。併せて、図書館としても、調べ学習の支援や資料提供等を通じて、情報リテラシーの育成に貢献してまいります。	有
26	P.39等	第3章 2 具体的な方策 (2)小学生 (3)中高生	それぞれの学校図書館の収蔵書籍の把握（もう把握しているのでしたら申し訳ないです）、実際に貸し出された本の授業の中での有用性の把握や有効な活用事例等の図書館から学校への発信および情報共有などコミュニケーションを確立していくことで、サポートを超えた協力の為に図書館司書、学校図書館専門員・支援員、教員のより一層の連携は不可欠だと思います。	ご意見ありがとうございます。各学校図書館の収蔵状況や、貸出資料が授業でどのように活用されているかの把握については、学校との情報共有や連携を一層進める余地があると認識しております。学校の状況や取組の把握に努めてまいります。 また、図書館から学校へは、研修の実施、学校連携だよりの発行、学校図書館専門員・支援員との情報共有、活用事例や資料紹介などの情報提供を行い、必要に応じて意見交換を行っています。引き続き、学校との連携を深め、図書館資料の活用促進に努めてまいります。	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
27	P.39 等	第3章 2 具体的な方策 (2)小学生 (3)中高生	<p>学校の空き教室を活用した「分散型図書拠点」の整備(基本方針①関連) 場所の制約を解消するため、少子化で生じる「学校の空き教室」を市立図書館の蔵書保管・貸出拠点として活用してください。学校図書館と市立図書館の専門的な蔵書が融合することで、多忙な日常の中でも、子どもたちが高度な知識に即座に触れられる環境が実現します。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。学校施設を地域コミュニティの拠点として活用し、教育資源を有効利用するという視点は、今後ますます必要になるものと認識しておりますが、学校における管理運営面等の課題整理が必要でありますので、今後の施設活用のあり方を検討していく上で参考とさせていただきます。また、図書館と学校図書館の蔵書の融合については、現時点では蔵書の物理的な融合という形ではなく、まずは学校への団体貸出や配送サービスの充実などを通じて、児童・生徒がより多様で専門性のある資料に触れられる環境づくりを進めてまいります。</p>	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
28	P.39 等	第3章 2 具体的な方策 (2)小学生 (3)中高生	<p>「学校図書館との連携」についても、昨日パブコメが締め切られた『第二次松戸社会教育計画 計画事業の見直し(案)』にも盛り込まれているが、具体的な施策がない。学校図書館の蔵書と市の図書館の蔵書のデータが共有されているとも聞いていない。市の図書館が市立学校の蔵書の全てを把握して、データ管理をする。子どもたちが図書館に行く気がしないのだから、学校図書館で市の図書館の蔵書が検索できて、学校の図書館で、市の図書も借りられるシステムをつくるのが良いと思う。</p> <p>松戸市の「図書館カード」を小中学生全てに配ること。そして、そのカードで学校図書も市の図書も借りられるシステムをつくること。自分の学校で市の図書も借りられるとしたら、子どもたちは、市の図書館に興味を持つようになると思う。市庁舎建て替え、クリーンセンター建て替えが優先されそうで、松戸市図書館中央館の建設の見通しが立たない現在、なんとか子どもたちが図書館の蔵書に興味を持つように努力するしかない。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。本計画では、図書館と学校の連携におけるシステム面を含めた具体的施策について、現場の状況や運用、費用面等も考慮しながら、今後の検討の参考とさせていただきます。</p>	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
29	P.39 等	第3章 2 具体的な方策 (2)小学生 (3)中高生	学校図書館機能を最大限活用するために、学校図書館専門員・支援員向けの研修を充実させるとしています。それと同時に、教職員が学校図書館専門員・支援員の活動を十分に理解し、専門員・支援員が最大限力を発揮していただくことを要望します。	ご意見ありがとうございます。学校図書館の機能を教育活動で最大限に活用するためには、学校図書館専門員・支援員の専門性と、教職員の教育実践をつなぐ連携が不可欠です。現在の計画では、P.39、P.46 で「教職員の読書活動関連研修や資料の充実を図ります」と記載しておりますが、「連携強化」という視点をより明確にするため、「教職員と学校図書館専門員・支援員の合同研修を充実させるとともに、両者の連携強化を図ります」に文言を修正いたします。具体的には、研修会の内容充実や優良事例の共有等を通じて、協働体制を構築してまいります。	有
30	P.41 等	第3章 2 具体的な方策 (2)小学生 (3)中高生	「図書館を使った調べ学習コンクール」への参加支援(基本方針②・③関連) 「問いを立て、調べ、まとめる」探究学習を支援するため、図書館振興財団の「調べ学習コンクール」への市を挙げた参加を提案します。	ご意見ありがとうございます。「調べる学習コンクール」は、児童・生徒が問いを立て、調べ、まとめる力を育成する上で意義のある取組であり、探究活動の充実に資するものと認識しております。また、本市が進めている POP コンクールは、読書活動や表現活動の充実を通して、子どもたちの主体的な学びを育てるという点で、共通する側面を持つ取組です。 今後は、POP コンクールとの兼ね合いを踏まえながら、「調べる学習コンクール」の取組についても検討してまいります。	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
31	P.42 等	第3章 2 具体的な方策 (2)小学生 (3)中高生	学校連携だよりの発行の内容に期待します。	ありがとうございます。学校連携だよりは、児童・生徒の実態や学校現場を熟知した学習支援専門員が、その時期に適した読書活動や授業支援に関する情報を掲載し、教諭、学校図書館専門員・支援員を対象に発行するものです。引き続き、学校現場での活用を意識した情報発信に努め、内容の一層の充実を図ってまいります。	無
32	P.42 等	第3章 2 具体的な方策 (1)乳幼児 (2)小学生 (3)中高生	市の LINE の活用と、SNS の発信はぜひ力をいれていただきたいです。とくに若者に今は Instagram が比較的使われています。X も使われている傾向です。	ご意見ありがとうございます。広報手段については、紙媒体に加え、SNS など、若い世代や子育て世代に届きやすい媒体の活用を今後さらに強化してまいります。	無
33	P.43	第3章 2 具体的な方策 (2)小学生	「小学校家庭教育学級を対象に、読書の意義について啓発します」の継続はとても大切な事だと思えます。然しながらあまり関心が低い、又は忙しくて参加できない等の家庭にどうやって啓発していくのか。SNS での発信がそこにあたるのでしょうか、期待しています。	参加が難しい家庭にも情報が届くよう、既存の手段を活用しつつ、効果的な手法について検討してまいります。	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
34	P.46 等	第3章 2 具体的な方策 (2)小学生 (3)中高生	保護者にむけて、図書館利用の啓発がありますが、保護者にもレファレンスサービスなど、保護者自身が使えるサービスをもっと紹介していただき、その延長線上で子どもと一緒にいきたくなる図書館の案内をしていただければと思います。	ご意見ありがとうございます。保護者への啓発については、学校ホームページや学校だより、保護者会、学級懇談会、個人面談時等、各学校の実情に応じた方法で実施している学校もあれば、今後の課題としている学校もあることが分かりました(図書館実施の調査による)。レファレンスサービスなど保護者自身も使えるサービスを知っていただくことは、図書館の活用を広げる上で大変重要だと考えておりますので、今後は図書館としても学校支援の立場から、より多くの学校で保護者への啓発がしやすいよう、例えば、学校に送付するブックリストやイベントや講座実施の案内等にレファレンスサービス案内も盛り込むなど、具体的な方法を検討してまいります。	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
35	P.46	第3章 2 具体的な方策 (3)中高生	計画的な蔵書の構成や環境整備を行いますについて、文部科学省の図書標準を満たしていない学校には、そもそも物理的な収納力が不足している場合がある。蔵書数だけでなく収納力についても確認と対処が必要と思います。	ご意見のとおり、学校図書館の充実には、蔵書数の確保とあわせて、実際に本を活用しやすい配架環境や収納力の整備も重要であると認識しております。文部科学省の学校図書館図書標準の達成状況を確認しながら、蔵書数に加え、棚の数や配置など、工夫や改善を検討してまいります。また、施設面の改善には制約がありますので、除架・除籍を行い鮮度を保つなど図書標準を満たす現場の取組を支援できるよう図書館と連携・協力を強化してまいります。	無
36	P.46	第3章 2 具体的な方策 (3)中高生	中高生向けの具体的な方策のなかで、学校図書館の環境整備として例えばコタツなどを置いて、なるべく家庭環境に近い環境にして図書に親しむことを提案します。	ご意見ありがとうございます。中高生にとって学校図書館が「居場所」となることは、読書推進において重要な視点です。コタツという具体的な什器については、学校施設の管理運営や安全面での制約がございますが、「家庭的でくつろげる読書環境」という趣旨を踏まえ、各学校の実情に応じて、くつろげる読書環境の整備について工夫・検討を進めてまいります。	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
37	P.47 等	第3章 2 具体的な方策 (2)小学生 (3)中高生	先日地域新聞で中学生のポップについて取り上げられていました。どんどん子ども達の意見を取り入れることお願いしたいです。	ご意見ありがとうございます。子どもたちが主体的に読書活動に関わることは、読書への関心を高める上で非常に重要です。本計画においても、POP コンクールをはじめとする子ども参加型の企画を推進する旨を明記しており、今後も子どもたちの声を大切にしたい取組を進めてまいります。	無
38	P.47 等	第3章 2 具体的な方策 (2)小学生 (3)中高生	項番 10 図書館と連携し読書活動や学校貸出を推進します について、学校貸出の推進のためには、図書館一学校間の(分館を経由しない)配送が有効と思います。	ご意見ありがとうございます。ご指摘のとおり、学校貸出を円滑に進めるためには、学校側の資料運搬に係る負担の軽減と、必要な資料を速やかに確保できる仕組みづくりが重要です。本計画では「学校貸出資料の配送サービスの拡充を検討します」(P.42、P.49)としており、図書館と学校との間をより効率的に結ぶ配送のあり方について、分館を経由しない形も含めて、頻度や方法の工夫、試行的な取組などを通じて検討を進めてまいります。	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
39	P.49 等	第3章 2 具体的な方策 (2)小学生 (3)中高生	ボードゲーム、とても賛成です。今の時代にとっても必要なコミュニケーションスキルをあげるために、必要なものです。ぜひ広く取り入れてもらいたいです。TRPG などでもできると思います。	ご意見ありがとうございます。ボードゲーム等は、コミュニケーション能力や論理的思考を育むとともに、読書活動への新たな入口として、図書館の新たな学びの場としての可能性を持つものと考えております。年齢や発達段階に応じた選定や、読書と組み合わせたイベントの可能性などについても、他自治体の導入事例を参考にしながら研究してまいります。	無
40	P.49	第3章 2 具体的な方策 (3)中高生	中学校の教員は、図書館の開館時間内に資料を取りに行くのが難しい。(小規模校は特に)市立図書館からの資料を(月に1度巡回等で)配送していただければ、利用が増えると思います。11の②をぜひお願いいたします。	ご意見ありがとうございます。ご指摘のとおり、学校貸出を円滑に進めるためには、学校側の資料運搬に係る負担の軽減と、必要な資料を速やかに確保できる仕組みづくりが重要であると認識しております。本計画では「学校貸出資料の配送サービスの拡充を検討します」(P.49)としており、図書館と学校との間をより効率的に結ぶ配送のあり方について、分館を経由しない形も含めて、頻度や方法の工夫、試行的な取組などを通じて検討を進めてまいります。	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
41	P.49	第3章 2 具体的な方策 (3)中高生	<p>現状の図書システムでは利用者側からNDC検索ができないので、「英語(および多言語)の本」を一覧で検索するのは難しい。</p> <p>中学校英語科が多読で使用したいという希望があるので、学校への配布資料に英語(および多言語)の貸出可能資料一覧を含めていただくか、検索できるようにしてほしいと、英語科の先生より希望がありました。学校連携だよりにぜひ追加をお願いいたします。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。「英語(および多言語)の原書」の検索についてご不便をおかけしました。いただいたご意見を受け止め、学校の学習状況に沿ったリスト作成や情報提供の方法について検討してまいります。</p>	無
42	P.49	第3章 2 具体的な方策 (3)中高生	<p>POP コンクールでの台紙の大きさですが、中学校でも(特に1年生は)今年から変更になったサイズでの作成に困難を感じている生徒もいました。差し支えなければ、小学校と同じ大きさに戻していただけると、もっと参加しやすくなると思います。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。POP コンクールにおける台紙の大きさについては、書店で一般的に使用されているものを参考に、サイズを変更いたしました。この見直しは、学校現場からの声も踏まえて行ったものですが、いただいたご意見も参考にしながら、今後の進め方について検討してまいります。</p>	無
43	P.50	第3章 2 具体的な方策 (3)中高生	<p>中高生の具体的な方策 その他 でひがまつテラスにある青少年プラザとの連携・協力は何もないのか。図書館と同じ施設にあるのだから、ぜひ連携してもらいたい。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。すぐ実施可能なものとしては、団体貸出を活用して、図書館資料を青少年プラザに貸出を行うなどが想定されますが、より効果的な方策について、関連課と検討してまいります。</p>	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
44	P.50	第3章 2 具体的な方策 (3)中高生	青少年会館の読書スペースについての流れで、中高生の居場所事業のほうでも本の貸し出しや、なにか繋がりはあるでしょうか？もしなければ、ぜひ作っていただきたいです。(東松戸、青少年会館以外の小さな居場所)	ご意見ありがとうございます。中高生の居場所における読書環境の充実は重要な課題です。本計画においても、こども館、常盤平児童福祉館の環境整備を明記しておりますが、図書館の団体貸出等のサービスを活用するなど、関係部署と連携しながら各施設の読書環境の改善に努めてまいります。	無
45	P.51	第3章 2 具体的な方策 (4)配慮を必要とする子ども	「施設の改修時にバリアフリー化を進めます」について、現状が気になりました。何カ所の施設にどの程度の困難さがあるのか。「改修時に」とはどのくらいの期間待たされるのか？その待っている間のサポートについて気になります。	現状の施設は狭隘であり、バリアフリー化にも限界がある状況でございます。改修の時期については現時点では未定のため、職員によるサポートなどにより、利用者の不便を軽減する対応を検討してまいります。	無
46	P.52	第3章 2 具体的な方策 (4)配慮を必要とする子ども	ユニバーサルな入り口「りんごの棚」の周知と名称統一(基本方針①・③関連)「読書サポートコーナー」という名称を、世界共通の「りんごの棚」に統一してください。 これは障害がある子だけでなく、文字が苦手な子、じっとしているのが苦手な子など、すべての子どもが自分に合った「読み方」を見つけられる場所です。このアイコンを学校図書館にも展開し、「どの子も読書を楽しんでいい」という安心感を周知してください。	本市の図書館における「本の楽しみ方サポートコーナー」は、子どもに限らず、年齢や特性を問わず、より多くの方に本を楽しんでいただくことを目的としております。「りんごの棚」については、その趣旨を理解しておりますが、現在の名称を維持しつつ、その意義をより分かりやすく周知してまいります。学校図書館への展開については、図書館の「本の楽しみ方サポートコーナー」やブックリスト等の配布時に紹介するなど、周知に努めてまいります。	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
47	P.52	第3章 2 具体的な方策 (4)配慮を必要とする子ども	東松戸地域館を利用している。コミュニケーションボードを見たことがある。本計画には「全館導入」と記載すべき。東松戸地域館にあることを知っている者は実績稼ぎ？と思ってしまう。	ご意見ありがとうございます。いただいたご意見を踏まえ、P.52 の該当の記述に「全館導入」と記載するよう修正いたします。	有
48	－	全体	5年に一度の改正に当たって一番気を付けることは、この5年の間に確実に変わったことは何かということ意識することだと思います。	ご意見ありがとうございます。ご指摘のとおり、デジタル化やコロナ禍後の生活様式等、社会環境や子どもを取り巻く読書環境はこの5年間でも変化しており、それが第1次評価やアンケート結果等にも影響していると考えております。第2次計画では「第2次計画推進に向けて」(P.23)でお示した①子どもの多様なニーズに応じた読書機会の拡充、②子どもが主体となる読書環境の構築、③デジタル環境の活用・整備、④学校と図書館の連携、の4つの視点を重視して取組を進めてまいります。	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
49	－	全体	<p>電子書籍とスマホの配信漫画、オーディブルのような朗読コンテンツなどをどの様に分類していくかは、ますますその境目を曖昧なものとして、それらの間を埋めるコンテンツは増え続けている。これからの図書館構想は子ども達の生育・学習・興味や探究心に答えていく上で前述した現状の変容を無視することは、この後の5年を想像すると織り込んで考える必要性を感じます。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。子どもの興味や学びに資するものであり、読書活動につながるものと認識しております。紙媒体に限らず、多様化する読書媒体をどのように取り入れていくかについて、検討を進めてまいります。</p>	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
50	－	全体	<p>電子図書館や音楽・動画等のデジタル資料の導入の検討を進めるということだが、第1次計画からの継続。第1次の5年間で答えが出なかったのか。第2次でも検討とは、検討という言葉で逃げているように感じる。葛飾区の電子書籍を利用しているが、絵本(重い・嵩張る)を電子書籍で借りることができ、とても便利。</p> <p>松戸市が未だに電子図書館を導入していないのが不思議。松戸市民のために早期導入を要望する。</p>	<p>電子書籍は、重さやかさばるといった点がないことに加え、図書館に来館する必要がなく、時間や場所を選ばずに利用できるなど、利便性が高いものと認識しております。図書館としても、資料の配架スペースが不要であることや、延滞・汚損・破損の心配がないことなど、そのメリットを十分に認識しております。第1次計画時期より導入に向けて情報収集には努めておりますが、現在まで導入に至っていない背景には、図書館向け電子書籍が紙の書籍に比べて価格が高く、さらに、人気書籍が充分でないこと、システム改修が必要となることなどの課題がございます。しかしながら、市民の利便性向上の観点から重要な視点であると認識しておりますので、引き続き他自治体の導入状況や費用対効果等を検証してまいります。</p>	無
51	－	全体	<p>全体を読ませていただき、現在でもブックスタートから始まり多岐にわたる取り組みに改めて気付かされ、松戸市の図書事業の頑張りを感しました。また、新規に取り組みされる事もとても多く新たな効率的な流れが確立されると嬉しく思います。</p>	<p>ありがとうございます。今後も既存事業を継続しながら、新たな取組を効果的に結び付け、本市の子どもの読書活動の更なる充実に向けて努めてまいります。</p>	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
52	－	全体	高度専門職(直営司書)の伴走: 生成 AI やプロンプトエンジニアリング等の最新スキルを持ち、情報の真偽を見極められる司書が伴走することで、子どもたちの情報活用能力を飛躍的に向上させてください。	ご意見ありがとうございます。生成 AI 等が普及する時代において、情報の真偽を見極める力は重要になっております。根拠に基づいた適切な情報へのアクセスを支援する能力を基盤としつつ、急速な社会変化に対応できるよう、資質の向上に努めてまいります。併せて、司書のみが全てを完結させるのではなく、関係各所との適切な連携を図ってまいります。	無
53	－	全体	新規事業も多くとても楽しみな推進計画案です。ぜひたくさん子ども達が本を手にする機会や、図書館に興味関心をもってくれる機会の拡張になればと願っております。いくつか、こまかいことですが意見をのこさせていただきます。現場レベルのことになると思いますので、案に直接影響を与えるようなものではないと思いますが、すこしでも子育て支援の現場の声と思って受け取っていただけると嬉しいです。	ありがとうございます。本計画に基づき、取組を着実に進めることで、多くの子どもたちが読書活動や図書館に親しむ機会の拡充に努めてまいります。	無
54	－	全体	図書館が子ども達の居場所になるような場所を増やしてほしい。	ご意見ありがとうございます。既存の図書館は狭隘であり、子どもたちの居場所として十分なスペースを確保することが難しい状況でございます。いただいたご意見は今後の図書館整備の参考とさせていただきます。	無

番号	頁	項目	ご意見	市の考え方	修正の有無
55	－	その他	計画がなかなか進まない図書館構想に向けて体制を整え、より良い構想の構築への道を想像することだと思います。	ご意見ありがとうございます。本計画では図書館構想について言及しておりませんが、本計画における取組の積み重ねは、将来の図書館のあり方にも影響すると考えております。様々な視点からの取組や連携を深めてまいります。	無
56	－	その他	松戸市の図書館は中央館構想ができたものの、先に進まない。地域館としてつくられた東松戸図書館は別として、今の本館と分館では、子どもたちが図書館を魅力あるものと認識できない。	図書館の整備は「松戸市図書館整備計画」に基づき進めており、その一環として東松戸地域館を開館いたしました。一方で、ご意見のとおり、多くの既存館は狭隘で、資料提供をはじめ快適な環境づくりに課題がございます。図書館の整備は、市全体の公共施設のあり方や将来の状況を踏まえて総合的に検討していく必要がございますので、現時点で具体的な方向性をお示しすることはできませんが、いただいたご意見は今後の図書館整備を検討する際に参考とさせていただきます。	無